

第2学年音楽科学習指導案

令和5年12月 日()第 校時

1 題材 私たちのきらきら星変奏曲をつくろう

2 題材の目標

- (1) 音素材の特徴及び反復、変化などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。
- (2) リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 主題の特徴を生かした創作表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、変奏曲に親しむ。

3 教材

「きらきら星変奏曲」モーツァルト作曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

本学年の生徒は、何事にも意欲的に取り組むことができる生徒が多い。一学期の音楽の授業では「サンタルチア」の歌唱テストをグループで行い、この曲にふさわしい表現をするための方法を各グループで相談し合い、歌唱表現を工夫する様子が見られた。また、合唱コンクールの自由曲選びでは、それぞれの曲のよさや難しいと思う部分を考え、互いに意見を交わしていた。このクラスの雰囲気に合う曲はどんな速度?どんなリズム?どんな曲調?と自分たちで考えて話し合っていたことがとても印象的であった。10月末の校内合唱コンクールにおいて練習に励んでいる。創作活動では、まず野菜の名前を使ってグループでリズム創作に取り組んだ。1小節に言葉を1回にしていたものを2回繰り返してみたり、お菓子の名前に変更して挑戦してみたり、自分たちで次のテーマを考え、創作をしたりするグループもあった。読譜や記譜が苦手な生徒も、様々な視点で楽しみながら授業に取り組むことができていた。ただ、自分が使いたいリズムを正確に記譜することには課題がある。生徒が抱いたイメージを具体的に楽譜にするのは、まだ難しいと感じる。

(2) 教材について

鑑賞の授業でモーツァルト作曲のきらきら星変奏曲を用いた。生徒たちは身近なきらきら星の旋律がモーツァルトによってあらゆる旋律に変奏していることを知り、興味をもって意欲的に取り組んだ。本題材では、幼いころからよく耳にしているきらきら星の旋律を使って、4分の4拍子8小節を主題としてオリジナルの短い旋律を創作する。誰もが馴染みのある旋律を主題として用いることで、創作活動をより身近なものとして感じさせながら、創作に必要な音楽の能力を高めていきたい。また、偉大な作曲家の変奏曲から感じ取ったことも手がかりとしながら、これまでに習得した知識や技能を生かした創作活動につなげたい。自分たちの作品発表後に、モーツァルトの作品を聴き比べることで、創作表現の可能性を実感させたい。

(3) 指導に当たって

これまでの創作の授業で問題となってきたことの多くは、記譜や読譜能力、演奏技術を伴う作品発表の方法である。それらの問題をクリアするためにタブレットを使用し、再生機能で実際に音を出しながら創作をすすめることで、

創作することの楽しさや喜びを実感しながら、作曲に必要な音楽の能力を育成したい。また、個人で創作した短い旋律をグループで組み合わせるなどして音楽の構成を考えさせることで、まとまりのある創作表現の創意工夫につなげていきたい。授業では、Finale NotePad2012を使用している。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

(第2学年及び第3学年)

A 表現(3)創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

[共通事項](1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

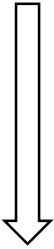
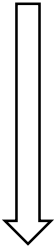
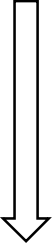
:「リズム」、「旋律」、「構成」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知] 音素材の特徴及び反復、変化などの構成上の特徴について理解している。</p> <p>[技] 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。</p>	<p>[思] リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>[態] 主題の特徴を生かした創作表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画(本時 3/4 時間)

時	教材	◎ねらい●学習内容・学習活動	評価(◆評価方法)		
			[知][技]	[思]	[態]
1	オリジナルの動機	<p>◎「ぶんぶんぶん」の旋律をもとにして、反復・変化などの構成上の特徴について理解する。</p> <p>●「ぶんぶんぶん」の旋律を反復させたり、変化させたりしながら旋律をつくる。</p> <p>・反復や変化のさせ方について知り、動機を生かした短い旋律をつくる。</p> <p>・グループで作品を発表しあい、互いの良いところなどを意見交換し、創作活動への意欲を高める。</p>	↓	↓	↓
2	自	◎変奏曲の様々な表現技能を知り、主題を生かしながら思いや意図をもって変奏をつくる。			

	作 変 奏 曲	<ul style="list-style-type: none"> ●「きらきら星」の旋律を主題として、変奏をつくる。 ・「きらきら星」の旋律を楽譜にする。 ・「きらきら星」の旋律を主題として、様々な変化を用いて変奏をつくる。 ・再生機能を活用して旋律を繰り返し聴き、イメージにあった変奏になるようにしていく。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">知</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 楽譜 ◆ ワークシート 		
3 (本時)	自 作 の き ら き ら 星 変 奏 曲	<p>◎創作した変奏曲を、旋律のつながりや全体のまとまりを創意工夫しながら、イメージにあった作品に工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれのテーマに合う作品をグループで考えながら、よりイメージに合うよう工夫していく。 ・グループで、創作した作品を確認する。 ・グループで話し合いながら、よりよい作品にするための課題や方法を考える。 ・各旋律のつながりや全体のまとまりを考え、意見を出し合い、工夫していく。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 観察 ◆ 楽譜 ◆ ワークシート 	
4	自 作 の き ら き ら 星 変 奏 曲	<p>◎グループごとに作品を発表し、批評しあいながらそれぞれのよさを共有することで、創作活動の楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いろんな形に変化させるなどしてつくったグループごとの変奏曲を発表し、それぞれのよさについて意見を交換する。 ・各グループの変奏曲を、旋律にあった音色を選択し、再生機能で発表する。 ・他のグループの作品を聴いて、気付いたことなどを意見交換する。 ・もう一度きらきら星変奏曲(モーツァルト作曲)を聴く。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">技</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 楽譜 ◆ ワークシート 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">態</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 発言 ◆ 観察 ◆ ワークシート

8 本時の目標

(1) 目標

主題を生かしながら、イメージに合うように思いや意図をもって変奏曲を創作する。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 前時の学習を振り返る。 2 本時の目標を確認する。			リズム 旋律 構成
テーマに合うきらきら星を創作しよう。			
3 きらきら星の旋律を使って創作する。	○再生機能を活用して聴かせる。		
4 グループ内で発表し合い、テーマに合った作品になるようグループで意見を出し合い創意工夫する。	○グループ内で作品を紹介して、創作の参考にさせる。 ○ワークシートを用いて、旋律の特徴や気付いたことを書き留めておくようにする。	◇ 思 リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ◆ 観察・楽譜・ワークシート	
5 全体で共有をする。	○本時の創作内容を確認し、次時の学習内容を知らせる。		

(3) 評価及び指導(手立て)

A(十分満足できる)と判断される具体的な状況	全体の構成やまとまりなどの課題に気づき、改善するための理由と方法を具体的に考えて創作活動に取り組むことができている。
B(おおむね満足できる)状況を実現するまでの具体的な指導(手立て)	既習内容をふり返り、変奏のパターンを例示するなどして生徒との対話を繰り返す中で選択させながら作品づくりを進めていく。